

保健福祉学研究科保健福祉学専攻博士前期課程 修士論文等審査および最終試験に関する要領

○ 看護領域

	修士論文	課題研究論文
論文審査基準	<p>看護領域において学術的価値があり、看護科学の発展に寄与するものであることを、以下の観点により審査する。</p> <p>① 先行研究が十分に検討された上で、研究の目的が明確に設定され、研究の意義が示されていること。</p> <p>② 研究目的に対して適切な研究方法を用いていること。</p> <p>③ 研究全体に一貫性があり、適切な形式や表記で論文が記述されていること。</p> <p>④ 研究の実施、もしくは結果の公開において、倫理的な問題がないこと。</p>	<p>看護実践の質の向上に寄与するものを適切な研究方法でまとめたものであることを、以下の観点により審査する。</p> <p>① 研究の目的が明確に設定され、研究の意義が示されていること。</p> <p>② 研究目的に対して適切な研究方法を用いていること。</p> <p>③ 研究全体に一貫性があり、適切な形式や表記で論文が記述されていること。</p> <p>④ 研究の実施、もしくは結果の公開において、倫理的な問題がないこと。</p>
最終試験基準	<p>修士論文についての発表および質疑応答、専門領域に関して以下の観点により口頭試問を行う。</p> <p>① 修士論文について簡潔にまとめられた発表をしていること。</p> <p>② 発表に対する質疑について適切に回答できていること。</p> <p>③ 現場で実践した内容を体系的に整理する能力、および社会へ発信できる能力を身につけていること。</p> <p>④ 現場のリーダーまたは管理者としてどのような活躍をしていきたいと考えているかを説明できること。</p> <p>⑤ さらに能力を高めていくための課題は何かを自らの言葉で述べること。</p>	<p>課題研究論文についての発表および質疑応答、専門領域に関して以下の観点により口頭試問を行う。</p> <p>① 課題研究論文について簡潔にまとめられた発表をしていること。</p> <p>② 発表に対する質疑について適切に回答できていること。</p> <p>③ 現場で実践した内容を体系的に整理する能力、および社会へ発信できる能力を身につけていること。</p> <p>④ 現場のリーダーまたは管理者としてどのような活躍をしていきたいと考えているかを説明できること。</p> <p>⑤ さらに能力を高めていくための課題は何かを自らの言葉で述べること。</p>

○ 栄養領域

	修士論文
論文審査基準	<p>栄養領域において学術的価値があり、栄養学の発展に寄与するものであることを以下の観点により審査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先行研究を十分に検討した上で、研究の目的が明確に設定され、研究の意義が示されていること。 ② 研究の実施に際して、人を対象とした場合には研究倫理審査委員会、実験動物を使用した場合には動物実験専門部会の承認を得ていること。 ③ 研究目的に対して適切な研究方法を用いていること。 ④ 研究結果において、データの管理および分析が適切に行われていること。 ⑤ 研究全体に一貫性があり、適切な形式や表記で論文が記述されていること。 ⑥ 研究を考察するに当たり、引用部分を明確にし、議論を進めていること。 ⑦ 研究の実施、もしくは結果の公開において倫理的な問題がないこと。
最終試験基準	<p>修士論文についての発表および質疑応答、専門領域に関しての口頭試問を以下の観点により行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 修士論文について簡潔にまとめられた発表をしていること。 ② 発表に対する質疑について適切に回答できていること。 ③ 研究の内容を現場に生かすための体系的に整理する能力、および社会へ発信できる能力を身につけていること。 ④ 現場のリーダーまたは管理者としてどのような活躍をしていきたいと考えているかを説明できること。 ⑤ さらに能力を高めていくための課題を自らの言葉で述べること。

○ 社会福祉領域

	修士論文
論文審査基準	<p>社会福祉領域において学術的価値があり、社会福祉学の発展に寄与するものであることを以下の観点により審査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先行研究との関連で、研究目的及び研究意義を明示していること。 ② 研究倫理規定にそった論文であること。 ③ 研究目的に対して適切な研究方法を用いていること。 ④ 研究方法にそって、データ収集及び分析が適切に行われていること。 ⑤ 研究全体に一貫性があり、適切に記述されていること。 ⑥ 引用箇所を明示したうえで、自らの考察を進めていること。 ⑦ 研究全体が論理的かつ明快であること。 ⑧ 当該論文の内容を公開することが研究倫理上適切であること。
最終試験基準	<p>修士論文についての発表および質疑応答、専門領域に関しての口頭試問を以下の観点により行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 修士論文について簡潔にまとめた発表であること。 ② 発表に対する質疑について適切に回答できること。 ③ 研究を実践現場に生かすための基礎的能力を身につけていること。 ④ 自らの今後の抱負について説明できること。 ⑤ 自らの能力を高めていくための課題を説明できること。

○ リハビリテーション領域

	修士論文
論文審査基準	<p>リハビリテーション領域において学術的価値があり、リハビリテーション学の発展に寄与するものであることを以下の観点により審査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先行研究を十分に検討した上で、研究の目的が明確に設定され、研究の意義が示されていること。 ② 研究の実施に際して、人を対象とした場合には研究倫理審査委員会、実験動物を使用した場合には動物実験専門部会の承認を得ていること。 ③ 研究目的に対して適切な研究方法を用いていること。 ④ 研究結果において、データの管理および分析が適切に行われていること。 ⑤ 研究全体に一貫性があり、適切な形式や表記で論文が記述されていること。 ⑥ 研究を考察するに当たり、引用部分を明確にし、議論を進めていること。 ⑦ 研究の実施、もしくは結果の公開において倫理的な問題がないこと。
最終試験基準	<p>修士論文についての発表および質疑応答、専門領域に関する口頭試問を以下の観点により行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 修士論文について簡潔にまとめられた発表をしていること。 ② 発表に対する質疑について適切に回答できていること。 ③ 研究の内容を現場に生かすための体系的に整理する能力、および社会へ発信できる能力を身につけていること。 ④ 現場のリーダーまたは管理者としてどのような活躍をしていきたいと考えているかを説明できること。 ⑤ さらに能力を高めていくための課題を自らの言葉で述べること。